

会議議事録

事業名	令和7年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業 (3)教職員の資質能力向上の推進① 効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進
代表校	一般社団法人全国専門学校教育研究会

会議名	第5回教員概論研修プログラム開発委員会
開催日時	令和8年2月2日(月) 13:00~15:00
場所	リファレンス駅東貸会議室
出席者	委員対面：植上 一希、佐藤 昭宏、小田 茜、丹田 桂太、 岡村 慎一、大石 法子 委員OL：佐藤 善邦、古賀 稔邦 計8名 請負業者：飯塚 正成 計1名 <u>合計9名</u>
議題等	<p>1. 本日の会議目的 植上委員より、本日の委員会の目的として、①沖縄における実証研修の実施報告と検証、②『専門学校教員概論』テキストの進捗状況および内容確認、③委託事業として作成するその他成果物の整理と今後の進め方について確認を行う旨が説明された。</p> <p>2. 沖縄実証研修についての報告および意見交換 (1)実証研修の概要報告 丹田委員および小田委員より、2026年1月30日に国際電子ビジネス専門学校(KBC 学園)にて実施した専門学校教員新任研修(実証研修)について報告が行われた。 本研修は4時間構成で実施され、講師は丹田委員・小田委員が担当し、委員として古賀委員、佐藤(善)委員、事務局の飯塚委員が参加した。受講者は14名で、主に着任1~3年目の教員を想定していたが、4年目に入る教員も含め、比較的幅広い層が参加した。 研修内容は、『専門学校教員概論』テキストのうち「はじめに」「第1章」「第2章」「第4章」「第5章」「第6章」を中心に構成され、福島研修で扱</p>

った第3章(業務内容)については省略した。各時間帯において講義とワークを組み合わせ、時間配分は概ね計画通り進行したとの報告があった。

(2)アンケート結果の概要

アンケートは Google Forms により実施し、現時点で 8 名から回答が得られている。各時間帯における研修内容の有用性、資料・説明の分かりやすさ、時間の適切さ、ワークの評価について設問を設けた結果、全体としては肯定的な評価が多く、特にワークに対しては非常に高い評価が得られた。

一方で、講義時間については「やや長い」との指摘が複数あり、70 分構成や 60 分構成については、内容量とのバランスを再検討する必要があるとの課題が示された。また、データを用いた説明が多い点について、「大学的・理論的な印象を受ける」との意見も一部見られ、新任教員向けとしては事例や実践的要素をより重視した方がよいのではないかとの示唆があった。

(3)委員からの所感・意見

古賀委員からは、研修全体は順調で、受講者が熱心に参加していた点が高く評価された一方、専門学校教員の初期キャリアを小中高教員と比較するスライドについて、新任教員に対してネガティブな印象を与えかねない点が懸念として指摘された。その上で、「職業領域における専門家」としての専門学校教員の強みをより強調する構成が望ましいとの意見が出された。

佐藤(善)委員からは、福島研修からの改善点として、アイスブレイク的な自己紹介を導入したことで受講者が研修に入りやすくなった点や、共感的な反応が増えた点が評価された。また、対象者(入職前、1~3年目など)によって研修設計を変える必要性が示された。

飯塚からは、研修全体として完成度は高いと評価しつつ、引用している調査データの一部が 10 年前のものである点について、現状との整合性に留意する必要があるとの指摘があった。

これらの意見を踏まえ、研修内容については全体として高評価であるものの、①時間配分、②データと実践のバランス、③対象年次の明確化、④専門学校教員のポジティブな専門性の強調が今後の改善点として整理された。

3. 『専門学校教員概論』テキストの進捗報告

佐藤(昭)委員より、テキストの進捗状況について報告が行われた。現在、全体で約 90 ページに達しており、原稿は概ね出揃っている状況である。未完成部分は主に第 5 章の後半および「おわり」に相当する箇所であり、近日中に完成予定とされた。

各章においては、執筆者によるコラムを挿入し、執筆者名も明記する構成としている。現在は誤字脱字のチェックを進めており、全原稿が揃った段階で表記揺れの統一や全体構成の最終調整を行う予定である。また、デザイン面についても調整を進め、PDF 形式での公開を想定している。

委員からは、表現の統一(「学校領域」「教育領域」などの用語整理)や、図版の修正箇所について確認が行われた。最終的には研究者ミーティングを開催し、概念整理と全体の目線合わせを行うことが確認された。

4. その他成果物および今後のスケジュール

事務局飯塚より、委託事業における成果物の全体像について確認が行われた。

主な成果物は以下の通りである。

- 研修プログラム(PowerPoint 約 210 ページ)
- 実証研修報告書(約 20 ページ)
- 『専門学校教員概論』テキスト(A4 約 80 ページ)
- 専門学校教員のキャリア形成に関する報告書(A4 約 3 ページ)
- 3 か年の事業報告動画(約 5 分)

これらは HP 掲載、PDF 公開、印刷配布、YouTube 公開等を予定しており、**最終提出期限は 2 月 20 日**であることが確認された。

5. まとめ

本委員会では、沖縄実証研修の成果と課題を踏まえ、研修プログラムおよびテキストの完成度が着実に高まっていることが共有された。特に、テキスト作成と研修実施を往還させながら改善を重ねてきた点は、本事業の大きな成果として確認された。今後は、対象者別の研修設計や、専門学校教員の専門性をより明確に言語化することが重要な課題として認識され、これらを踏まえた最終成果物の取りまとめを進めていくこととなった。